

府立富田林支援学校



テーマ:ICT 機器等を活用しての「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり」の実現

概要

キャリア教育の視点を踏まえた授業づくり

富田林支援学校では、児童・生徒一人ひとりを大切にする教育をすすめるとともに、自立と社会参加を可能にする力を養い、個に応じた進路実現を図ることにより、保護者や地域から信頼される学校をめざしています。令和元年度のパッケージ研修支援では、「主体的・対話的で深い学び」の視点と、キャリア教育の視点を踏まえた授業づくりをテーマとし、ICT 機器の積極的な活用も含めた授業づくりの研修を行いました。

実施スケジュール

Research

8月中旬

担当者、教頭、担当指導主事と、今後の進め方について打ち合わせ

Vision

10月8日(火)

全体会

テーマ「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり」

Plan

11月上旬~

指導主事による授業見学・指導案検討

Do

2月21日(金)

研究授業・研究協議(高等部:職業)

研究授業・研究協議(中学部:職業・家庭)

Check & Act

3月上旬

アンケート集約

全体会

10月8日(火) 「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり」

支援教育推進室指導主事より

～富田林支援学校～

＜今年度の授業づくりのテーマ＞
・学習指導要領に基づいた、ICT機器等を活用しての「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり」の実現

キャリア教育と「主体的・対話的で深い学び」の関連性は？

3. Plan (学習指導案作成)

☆「めざす授業像」の具体化

同じ教科・学部の同僚や指導教員
アイディアを出し合う
授業者・担当者
経験年数の少ない教員
経験者に参加を！
教育センター指導主事

学習指導要領の改訂に向けて

文部科学省 教育課程企画特別部会 拠点整理
「2030年の社会と子どもたちの未来」より

・教育の将来像を描くに当たって一つの目標となる2030年の社会の在り方を見据えながら、その先も見据えた初等中等教育の在り方を示し、日本の子供たちの学びを支えるとともに、世界の子供たちの学びを後押しするものとすることが、今回の改訂に課せられた使命である。

2030年の社会を見据えた改訂とは？

キーワード：主体的・対話的で深い学びの視点

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて
授業改善のポイント

○目標やねらいの設定の改善
○全体計画の改善(単元・題材等)
○実際の授業場面の改善(学習内容・学習活動・指導方法・T・Tの機能強化等)
○学習評価の改善

これまで蓄積してきた取組みや教育実践から、どの部分に「主体的・対話的で深い学び」の改善があるのか考えよう。

授業改善のための視点について

視点	実践事例	例
主体的な学び	学習者自身が主体的に学習に取り組むことにより、知識・技能の習得や態度・能力の育成が図られる。	学習者自身が主体的に学習に取り組むことにより、知識・技能の習得や態度・能力の育成が図られる。
対話的な学び	学習者同士や教員との対話を通じて、知識・技能の習得や態度・能力の育成が図られる。	学習者同士や教員との対話を通じて、知識・技能の習得や態度・能力の育成が図られる。
深い学び	学習者自身が主体的に学習に取り組むことにより、知識・技能の習得や態度・能力の育成が図られる。	学習者自身が主体的に学習に取り組むことにより、知識・技能の習得や態度・能力の育成が図られる。

キャリア教育に関わる資質・能力

資質・能力

「学び」を通じて、主体的に学習に取り組むことにより、知識・技能の習得や態度・能力の育成が図られる。

キャリア発達とは

「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」のことを指す。

「誰に」も通じた「自分らしい生き方」

自分らしい生き方

「主体的・対話的で深い学び」の視点とキャリア教育の視点の関連性についてや、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくりにおいて留意すべきこと、キャリア教育にかかわる資質・能力について講義しました。(資料は抜粋)

研究授業(1)

学年・教科： 高等部2年 「職業」
 単 元 名： 「名刺づくり ～商品化にむけて～」

研究協議の
ポ イ ン ト

「ICT 機器等を活用しての『主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり』の実現」

卒業後の進路を見据えた体験的な学習活動として行った授業について、発問の提示の仕方や ICT 機器を活用した視覚支援の方法について、生徒が主体的に取り組むことができるような教材の工夫について協議しました。



研究授業(2)

学年・教科： 中学部2年 「職業・家庭」
 単 元 名： 「卒業生への贈り物 ～サイコロカレンダーづくり～」

研究協議の
ポ イ ン ト

「ICT 機器等を活用しての『主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり』の実現」

自分の将来を見据えて製品づくりを行う授業について、生徒が主体的に取り組むことができるような目標の提示の仕方や、材料加工における安全管理の方法、製品に適した基準への理解を促す方法などを協議しました。

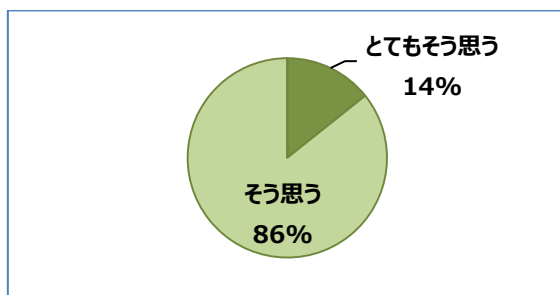


成果

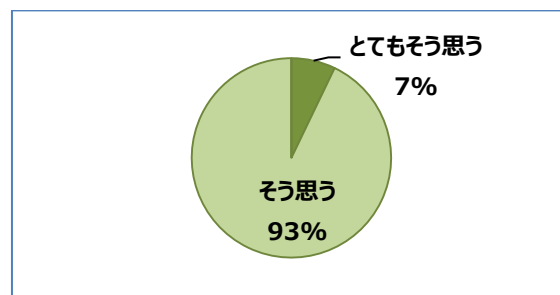
「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくりについて、教材の工夫や発問の提示の仕方、対話的な活動の在り方について協議及び実践を重ねることで、生徒が自分の変容を感じることができるような教材や、製品に関する発問によってうまれる対話的活動、将来を見据えるという教科の見方・考え方を踏まえた活動が授業の中に見られました。校内の教職員が集まって行われた研究協議によって、今回の研修によって得られたことを周知することができました。また、ICT 機器を積極的に活用し、活動の見通しがもてるようになっただけでなく、生徒が疑問に感じたり、さらなる工夫のためのヒントを得るための方法として ICT 機器を活用することができていました。

アンケート
結果

① 学校のニーズにできていた



② 今回の成果を継続的に生かしていく



(感想より)

- ・ 新学習指導要領についての情報共有や、研究授業の内容を共有することで授業力の向上につながったと思う。
- ・ 授業者が自分の考えや授業を他の教職員に見てもらい、意見をいただくことで、授業力がとても向上したと思う。
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の視点のうち、「深い学び」についてさらに具体例を含めて知りたい。